



第4号発刊にあたって

一般社団法人カリタス南相馬代表理事 幸田和生

南相馬市社会福祉協議会（会長：西浦武義氏）との協力関係は、2012年にカリタス原町ベース（カリタス南相馬の前身）が始まったときから続いています。昨年3月16日、この地域に大きな被害をもたらした福島県沖地震でも、カリタスは社協が設置する災害ボランティアセンターに運営側として関わらせていただきました。そんな関係からこの度、「災害時の協力に関する協定」を結ばせていただくことになり、今年3月13日に締結式が行われました（上の写真）。この協定には、災害が起こった時だけでなく平常時の協力も含まれています。微力ながら、今後とも地域からの信頼に応えていきたいと思えます。

ウクライナでの戦争などの影響によるエネルギー危機に直面して、日本政府は原発依存を減らしていくというこれまでの政策を大きく転換しようとしています。原発の運用期間を実質的に延長し、増設・新設まで認めるなど、原発を最大限活用しようというのです。原発事故は過去の出来事ではなく、今も終わっていないのに、福島原発事故のことを忘れてしまったかのようです。この地の現実を多くの人に伝えるのもわたしたちの使命だと改めて感じています。今後とも、皆さまのご理解・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

ごあいさつ

カリタス南相馬所長 南原摩利

カリタス南相馬の活動を日々支えてくださっている全国の皆様に、心から感謝申し上げます。昨年3月16日の福島県沖地震は、南相馬市鹿島区の屋根被害が大きく「チームふじさん」が中心となって何か月もブルーシート張りのボランティアを行なって下さいました。心から感謝いたします。その際、全国の皆様からのご支援により飲料水やブルーシートなど必要な資材も購入させて頂くことができました。改めて全国の皆様との繋がりに感謝するばかりです。

夏休みには、コロナ禍になって3年ぶりに学生のボランティアを受け入れることができ、少しずつ日常を取り戻しつつある現状を嬉しく思います。世界情勢を見るとき、心痛むことばかりですが、希望を持ってこの一年を歩むことができますよう、今後も変わらぬご支援とお祈りをよろしくお願い致します。全世界に一日も早く平和が訪れることを願って・・・

活動の紹介

一般社団法人カリタス南相馬 2022年1月～12月の活動をご紹介します。

1) 食事と宿泊の提供

宿泊を希望するボランティアと現地で学ぶことを希望する方々に宿泊場所を提供しました。コロナ禍にあって宿泊受け入れ人数及び滞在日数を制限していましたが、2023年4月現在、各部屋4名までの8名を定員としています。コロナワクチン接種3回の証明書もしくは、PCR検査か抗原検査の陰性証明書を提示して頂き、感染症対策を徹底しながら受け入れ態勢を整えてきました。

2) ボランティア活動のコーディネート

相双地区の施設や団体及び個人などからのボランティア要請（除草作業、家の片付け、障がい者施設の作業補助など）と、ボランティア活動希望者との活動調整を行いました。3月の地震の際は、技術系のボランティアの方に限り受け入れを開始し、屋根の作業に当たって頂きました。毎週土曜日には、旧避難区域である小高区の除草作業も継続しました。夏には小高神社からの依頼で相馬野馬追祭の行列に参加しました。



地震後、被災宅の片付け作業



相馬野馬追祭行列ボランティア

3) 地域住民の交流の場の提供とイベントの企画及び運営

南相馬市教育委員会事務局生涯学習課主催の「まちづくり出前講座」への登録を継続して要請

真こころサロンイベント(鹿狼山散策)



に応えました。1階多目的室で活動していた真こころサロンは週に一度の開催となりましたが、イベントに参加したり屋外に出かけたりと、皆さん楽しいひと時を持つことが出来ました。小高工房の場所をお借りして「なんばんひろば」のサロンを継続し、住民が自由に集まり話せる場を提供しました。また同場所において聖霊会のシスターによる「パステルアート教室」や小高の交流センターにおいて聖心会のシスターによる「英会話教室」も継続しています。またカリ

タス南相馬の多目的室を利用し、料理教室やクラフト教室なども開催できました。夏と秋には、地域住民に向けたカリタス南相馬主催のコンサートも開催することができました。「すすきだ音楽隊」によるマリンバ・バイオリン・チェロの演奏や武内良太郎さんによるバイオリンコンサートも毎年恒例となり住民の皆様喜んで頂いています。3年ぶりに「カリタスバンド」のコンサートも開催し、懐かしい方々との再会を楽しんで頂きました。

すすきだ音楽隊によるコンサート



バイオリンコンサート

4) サポートを必要としている子どもと大人の支援

3月16日の地震発災後、南相馬市災害ボランティアセンターが開設され、社会福祉協議会からの要請で運営側のお手伝いしました。屋根のブルーシート張りに関する依頼については、社協が受けたものをカリタス南相馬で請け負うこととなり、現地調査、ボランティア派遣（地元チーム「騎馬武者ロックフェス実行委員会」と「チームふじさん」の2グループへ連絡調整）、依頼主さんとの日程調整、作業後の完了確認報告などを行いました。



全国から必要な物資を送って頂きました。感謝。

「子育て応援」お米支援の第3弾として再度教育委員会を通して市内の小中学校長及び高校と



学生さん手作りの
暑中見舞いカード

支援学校へもお米支援のチラシを配布して支援を継続しました。社会福祉協議会のサロン活動や地元のサロン活動への参加も継続し、交流の場作りに協力しました。南相馬市のファミリーサポート事業も継続。カリタス南相馬の場所を提供し、「真こころ」スタッフの協力のもと、乳幼児の一時的な預かりを行いました。また、隣接するさゆり幼稚園からの要請に応え、給食の提供を行いました。小高区の災害公営住宅及び一人暮らしの高齢者を中心に、戸別訪問を継続。聖心女子大学の皆さんが作成した「こころ通信」を隔月でお届けし、交流の機会となっています。

独居男性の多い団地へ「カリタスのおかず」を冬季限定ですがお届けし、大変喜んで頂きました。クリスマス時期や夏には、学生手作りのクリスマスカードや暑中見舞いのカードを子育て応援のお子さんや公営団地の高齢者にお渡しすることが出来ました。

5) 持続可能な暮らしへの取り組み

持続可能な暮らしへの取り組みの一環としてカリタス畑における野菜作りも継続。畑から収穫された食材をカリタス南相馬での食事提供や幼稚園給食で活用しました。また、さゆり幼稚園園児のサツマイモの苗植え、成長見学、イモ掘りなどに畑を提供することができました。



サツマイモ掘り



サツマイモの苗植え

6) 東日本大震災と原発事故による被災地等の案内及び情報発信

東日本大震災と原発事故がもたらした福島での被災地における現状を伝えるために現地案内を行いました。廃炉資料館や震災遺構となった請戸小学校及び東日本大震災・原子力災害伝承館などの資料館や震災から復興した場所、全く変わっていない場所など被災地の現状を見て頂いたり、住民の方のお話を伺う機会を作ることで被災地の現状をお伝えしました。

また現地のイベントや復興状況などをFacebookへ配信しました。「カリタスみちのく」とも連携し、カリタス南相馬の活動報告を毎月行ってきました。またYouTubeを利用してカリタス南相馬チャンネル(カリみそチャンネル)の配信も継続しています。



廃炉資料館を見学



現地案内 大平山霊園

(東日本大震災の慰霊碑)

CTVC カリタス原町ベース から カリタス南相馬へ

写真で見る10年のあゆみ (2012~2022)

●2011.3.11 東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故発生

2011.3.16 仙台教区にサポートセンター設置

2011.4.24 カトリック東京ボランティアセンター (CTVC) 開設
(2021.3 活動終了)

2012.3.11 CTVC 主催「追悼の祈り」【写真右：原町区北泉海岸】

2012.6.1 原町区青葉町に CTVC カリタス原町ベース開設【写真下】



2012.6. 南相馬市の災害ボランティア活動に派遣開始(2018.2 終了) 【写真右：受付玄関】

2012.8. 福島やさい畑主催、仮設住宅訪問時に野菜提供。原町教会との協働開始
(2017.9 終了) 【写真左】



2013.3.11 同慶寺および宮城県亘理町の震災犠牲者追悼行事に参加

●2013.4 浪江町の警戒区域再編に伴い、請戸地域など立ち入り許可となる

2013.4. 眞こころサロンの活動との協働開始【写真右下：仮設住宅集会所】



2014.3.11 追悼・復興祈念「思いつづける3・11」(同慶寺および東京・麹町教会)

2014.7. 南相馬市社会福祉協議会の仮設住宅戸別巡回の補助開始(2015.4 終了)

●2014.9.14 国道6号線の帰還困難区域、自動車のみ通行可となる

2015.1. さゆり幼稚園の延長保育見守り補助の活動開始 (2020.3 終了)

【写真左：ミュージックタイム】

【写真下：園舎内砂場】



さらに詳しい沿革などは、カリタス南相馬のホームページ「浜通りの動き」をご覧ください



2015.3.10 日本山妙法寺主催「いのちの行進」に参加。同慶寺から浪江町の海岸で祈る(毎年開催)【写真左】

2015.10.1 「小高ぶらっとほーむ」が駅前通りに開設されており毎週火曜日はカリタスが留守番担当開始(2020.9 終了)

●2016.7.12 南相馬市小高区の避難指示解除



2016.12.17 カリタス原町ベースから「カリタス南相馬」に改称し、原町区橋本町に移転【写真右：落成式】

●2017.3.31 浪江町の一部など、避難指示解除

2017.4.1 真こころサロン、カリタス南相馬で活動開始

2018.3 さゆり幼稚園に週一回のおにぎりとスープ提供開始【写真下】



●2018.3.31 南相馬市内の仮設住宅供与を原則終了

2019.4.22 一般社団法人カリタス南相馬設立総会
2019.10.12 台風19号と豪雨災害ボランティア派遣開始と支援物資提供。(2020.2 まで)
【写真右：宮城県南部地域での炊き出し】

2019.11.25 教皇フランシスコの「東日本大震災被災者との集い」参加(東京・半蔵門)【写真左】

2020.3 新型コロナウイルス感染拡大の影響でイベントなど中止。

●2020.3.14 JR常磐線全線再開

2020.4 コロナ禍における生活困窮者(子育て家庭および外国人労働者)への支援開始

【写真左下：外国人食料支援、中央：作成したシールド板を集会所等へ寄贈】

2020.10 「小高工房」を借りてシスターによる週2回「なんばん広場」開始

2020.10.29 福島県社会福祉大会においてボランティア功労表彰(県社会福祉協議会会長賞)【写真右下】



2022.3.16 福島県沖地震による南相馬市社会福祉協議会との災害ボランティアセンター運営協働開始

●2022.8.30 双葉町の駅周辺は特定復興再生拠点として一部避難指示解除



< ボランティアさんの声 >

カリタス南相馬の皆様へ感謝 「チームふじさん」代表 藤野龍夫（愛知県）

私は東日本大震災と福島第一原発事故の1年後、2012年4月から南相馬市ボランティア活動センターで災害復旧支援ボランティアを始めて以来、月に1、2回の割合で愛知県から通って活動し、2013年3月20日に団体「チームふじさん」として南相馬市をホームグラウンドとして捉え、原発事故による避難者さんの生活復旧復興に寄り添った活動を続けてきました。また、こちらの活動と並行して各地で発生した災害復旧支援にも携わってきました。



「チームふじさん」筆者は写真上段右から3番目

昨年2022年3月16日発生



地震ではカリタス南相馬チームと連携して南相馬市社会福祉協議会災害ボランティアセンターの要望に応じて「チームカリタス」の屋根復旧技術系ボランティアとして活動しました。

3月20日より7月5日まで延べ61日間、主に地震による屋根瓦の損傷で雨漏りのあった被害宅にてブルーシートを展張して雨漏りを防ぐ作業を実施し、住民さんに安心して生活ができること喜んで頂きました。その後、新たに出てきた作業として活動63日目の10月15日、16日には地元南相馬市近辺のボランティアさんとの合同作業も実現できました。



雨漏り被害の酷いお宅では、家全体に雨水が漏れ出て漏電の心配も起きる被害や、雨漏りが少ないお宅でも放置するとカビによる健康被害、構築木材の腐朽にまで発展します。



また、県外からの悪徳業者が法外な値段でいい加減なやつつけ作業で終わらせて、再度の雨漏り被害、二度のどん底を経験した住民さんも居られます。

私たち県外ボランティアが暑い日々危険を伴う作業を安全に継続できたのは、快適な宿舎、美味しい食事の提供や日々温かく迎えて頂いた幸田司教様始めスタッフやシスターの皆様のおかげです。

南原所長様スタッフ佐藤様とも活動をご一緒していく中で地元で屋根の作業ができるメンバーが育ったことも大きな成果です。

今後も「チームふじさん」は、カリタス南相馬の皆様と連携して活動を継続致したい所存ですので、ご支援宜しくお願い致します。

本当にお世話になり感謝申し上げます。



京都暁星高等学校（京都府宮津市） 校長 玉手健裕

私が初めて福島県を訪問したのは、2013年1月でした。以後毎年訪問し、写真を撮り校内で報告してきましたが伝わりません。今回やっと生徒・先生の現地訪問が実現しました。コロナ禍の中、カリタス南相馬の皆様のおかげです。感謝です。他者のために時間を割き、耳を傾け、共感し、理解する。5感を使っての学びの大切さを実感します。私自身、原発について知識不足を痛感しました。勉強しなければなりません。この冬エネルギー不足に備えて、原発の再稼働を進めています。私達は原発事故から何を学んだのでしょうか。多くの人に現地を訪問してほしい。若者に期待します。



廃炉資料館見学



旧避難区域の除草作業



同慶寺にて田中住職のお話を聞く

教員 安井映似

校長先生から訪問される度に現地の状況を耳にし、廊下に掲示された写真を見ながら心の片隅でずっと気になっていた福島。聞く話、目に映る光景に正直とても気分が重く、被害に遭われた方々の気持ちを思うと、胸が押し潰されそうでした。原発被害の深刻な状況については自分の責任も問われていると感じたからです。その中で、毎日のミサと日曜日の夜の祈りは、揺れ動く心に活動（生き方）の指針となる言葉を刻み、活力を頂く時間になりました。「ちゃんと今を生きること」広畑さんからのメッセージを大切に、本当に大切なことを考えながら生きていきたいと思えます。

東星学園高等学校（東京都清瀬市） 教頭 長谷部準子

東京都清瀬市にある東星学園では、2014年から夏休みに高校生、春休みには教職員がカリタス南相馬にお世話になりながらボランティア活動を行ってきました。コロナ禍で行えなかった時もありますが、2022年度から再開することができました。2023年3月、4年ぶりに行う教職員対象の被災地ボランティアは、コロナ禍であることから、対外的な活動ではなく主に現地視察でした。夏休みに高校生と訪れる福島を先生方に見て頂く良い機会になりました。特に嬉しかったのは、2014年夏に初めて行った活動に生徒として参加していた人が、教員となって再び参加してくれたことです。当時は避難指示区域も広く、訪れる場所もわずかでしたが、12年過ぎても震災当時のままの現状がある事に新たな気づきを持ったようです。カリタス南相馬という場所があることで続けてこれた活動。これからも、福島に心を寄せつつ活動を続けていきたいと思っています。



作業後のひと時（大聖寺にて）



震災遺構 請戸小学校見学



教職員対象の現地案内

★ 上記のように現地案内を行っておりますので、個人でご希望の方もご相談ください。

カリタス南相馬は

- ・東日本大震災と原発事故により、困難な状況におかれている人々とともに生き、すべての人々の尊厳が尊重される社会を目指します。
- ・福島第一原発から25kmにある場として、福島の実現とそこに生きる人々の思いを世界につなぎます。
- ・地球環境を大切に、自然との共存を目指します。
 - ① 地域コミュニティの再創造に向け、地域の人々とともに働きます。
 - ② 原発事故がもたらした福島の厳しい現状と地域の日常の変化、いのちの尊さを学び、ともに祈り、伝えます。
 - ③ 自然とともに生きる暮らしの実現に向けて、生活を見直します。

2022年度会計報告

(2022年1月1日から12月31日まで) (単位:千円)

収入の部	金額	備考
受取会費	2,120	
受取寄付金／受取寄付金振替額	11,172	
受取助成金／受取助成金振替額	3,586	
受取利息／雑収入	2	
① 収入計	16,880	
支出の部	金額	備考
事業費 (各事業費には、人件費含む)		
宿泊提供	3,605	
ボランティアコーディネート	2,141	
交流の場とイベント企画	1,064	
子どもと大人支援	4,130	
持続可能な暮らしの取組み	476	
現地案内・情報発信	2,651	
管理費	3,705	
② 経常費用計	17,776	
③ 当期一般正味財産増減額	△895	①-②
④ 一般正味財産期首残額	84,991	
⑤ 当期指定正味財産増減額	△2,348	
⑥ 指定正味財産期首残額	11,776	
⑦ 正味財産期末残高	95,522	④~⑥計

<カリタス南相馬 賛助会員 募集中>

カリタス南相馬の活動を経済的にサポートして下さる賛助会員を募集しています。

入会金 無料 年会費 一口5,000円 一口以上
会員特典 年1回発行のニュースレターを送付。

入会方法 カリタス南相馬にご連絡頂くか、下記振替口座に氏名、住所、電話番号、賛助会員入会、口数をご記入の上、年会費をお振込みください。その他の寄付金も下記口座にお願い致します。

郵便振替口座 口座番号 02230-2-127643
口座名義 一般社団法人カリタス南相馬
ゆうちょ銀行二二九店 当座 (0127643)

あたたかいご支援ありがとうございました。

目標：賛助会員5000人

賛助会員：245人 支援金：335件

カリタス南相馬だより 第4号

2023年4月1日発行

一般社団法人カリタス南相馬 発行責任者:幸田和生
〒975-0006 福島県南相馬市原町区橋本町1-15
TEL 0244-26-7718 FAX 0244-26-8007
E-mail: info@caritasms.com <https://caritasms.com/>
<https://www.facebook.com/caritas.minamisoma>